（一社）日本地震予知学会
Earthquake Prediction Society of Japan
EPSJ NEWSLETTER, December 2015 Vol. 1
EPSJ NEWSLETTER

2015.12.04発行
第1号

編集　　日本地震予知学会理事会
編集長　神山　眞

一般社団法人　日本地震予知学会
〒108-0014 東京都新宿区岩戸町11番地　清風ビル3階
TEL、FAX:　03-5579-8470
E-mail: office@eqpsj.jp
Website: http://www.eqpsj.jp/contact.html

EPSJ NEWSLETTER, December 2015 Vol. 1

日本地震予知学会 会長あいさつ

日本地震予知学会の発足とニュースレターの創刊に寄せて

会長　早川正士（電気通信大学名誉教授）

日本地震予知学会会長の早川正士です。

日本地震予知学会（一般社団法人）は2014年に設立されたばかりの新しい学会ですが、この度学会のニュースレターを発刊するに当たり、当学会についてご紹介したく存じます。

地震の予知は一般的に、地震が発生するまでの時間的な長さにより、長期、中期予測、短期予知の3つに分類されます。長期予測および中期予測は、その発生時期（先行現象から地震発生までの時間）により、それぞれ数10年～数百年、数年～数10年に対応しています。一方、短期予知は、1か月～数日程度を指しています。このうち短期予知の重要性はとりわけ注目されます。何故なら、短期予知は地震発生までの猶予時間からして、防災、減災の観点から最も直接的効果が期待されるからです。また、重要インフラや国民の警戒体制が短期間で済み、警報発布による社会的負担を低く抑えることができると考えられます。もとより、長中期予測との連携によりその意義は著しく増大することは言うまでもありません。

我が国における地震予知に関する研究は永きにわたり、本震前の力学的先行現象の検出に重点が置かれてきましたが、大規模災害を引き起こした平成7年(1995年)兵庫県南部地震に続き平成23年(2011年)東北地方太平洋沖地震においても残念ながら予知は成功していません

一方、おおよそ20年前から始まった比較的新しい試みである地震電磁気現象は地震の短期予知にとって重要な物理現象であることがわかり、更に上層大気（電離圏）までもその影響が及ぶことも知られてきました。これらの電磁気現象は、地震までの予兆期間が一か月から数日以内と、短期地震予知に有効な手法であると考えられうる多数の知見が国内外から集積され続けていますが、これらの電磁気現象発生の物理機構は仮説の段階であり、かつ多くの謎につつまれています。しかも、観測手法は地上観測のみならず、人工衛星観測にも及んでいます。このように、地震予知は極めて学際的な研究対象であることから、多くの分野の研究者間での協力によってのみ解明されると考えられます。力学的先行現象、電磁気先行現象などのみならず、動物の異常行動などの多種多様な宏観異常現象などをも包括的に論ずることが求められています。平成23年(2011年)東北地方太平洋沖地震に伴う大規模災害以降、国内では次なる大規模地震の発生場所や発生時期に関して関心が高まっています。その中でも近い将来発生するであろうと指摘される関東直下、東海地震及び東南海、南海地震は、ひとたび発生するとその被害は甚大とされています。この猶予ならない現状を踏まえ、現在まだ研究途上にある各種先行現象を用いて地震予知手法の確立を目指し、学際的に英知を結集し、地震予知にむけた研究活動の推進のため本学会を設立するものです。

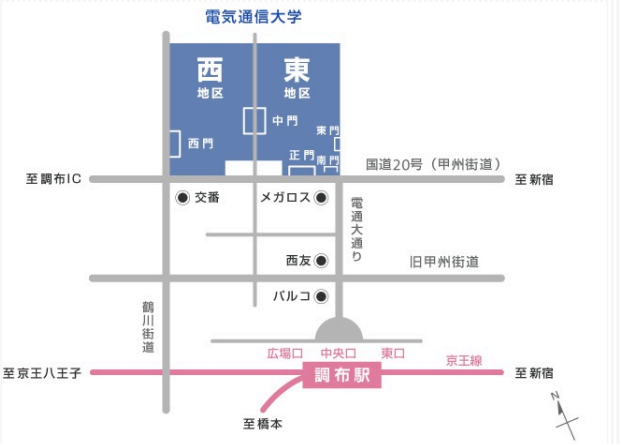
2014年12月25日、26日の両日、電気通信大学において第1回学術講演会を開催し、特別講演3件、グループ活動報告7件、一般講演11件が発表されました。両日とも70人前後の参加者にて極めて活発な議論が展開されたことは喜ばしい限りです。また、25日の夜に開催した懇親会にも40名前後の参加者があり、地震予知学会の現状、将来に関して様々な意見交換がなされ、有意義なものでした。引き続き本年2015年も12月21日(月)、22日(火)の2日間にわたり、同じく電気通信大学において第2回学術講演会を予定しております。皆様のご来場をお待ちするとともに、是非とも学会員としてご参加ください。

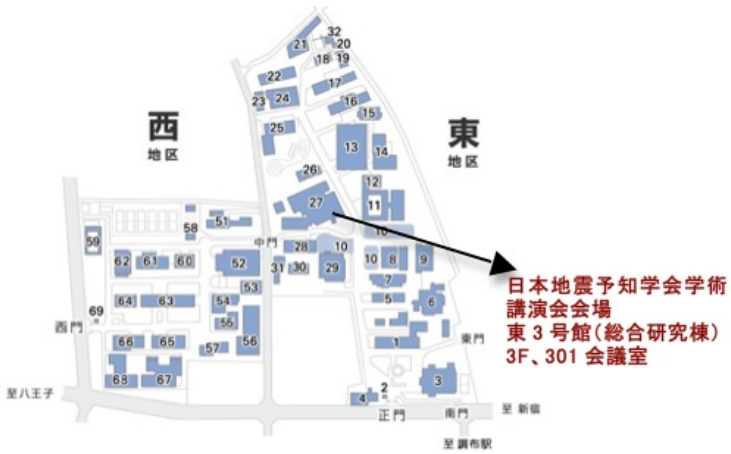
当学会の活動を広く皆様（会員だけでなく、非会員にも）に知っていただく為、学会広報誌のニュースレターを発刊することを理事会にて決定いたしました。ニュースレターの内容としては、(1)学会のお知らせ、(2)学会関係行事予定、(3)学会関連行事の報告、(4)会員からの各種投稿などです。皆様、積極的にご参加いただければと存じます。

行事案内

第2回(2015年)学術講演会

日時：平成27年12月21日(月) ～　22日(火)
会場：電気通信大学東3号館（総合研究棟）3階 301号室
（〒182-8585　東京都調布市調布ヶ丘1-5-1）
電話番号：042-443-5000（代表）
共催：関西サイエンス・フォーラム
後援：電気通信大学
会場へのアクセス(下図参照)：
京王線 調布駅下車、中央口改札、中央口から徒歩5分
参加費：会員無料　非会員¥2,000(2日間有効)
懇親会：21日(月) 18時00分～　大学会館3階「ROYAL」
参加費¥4,000（学生¥2,000）





—プログラム —

第 1日目 12 月 21 日（月 ）　　午前の部
座長 児玉 哲哉（宇宙航空研究開発機構）

09:30-09:40　　～開会挨拶～　会長　早川正士

09:40-10:00
[一般講演]
長尾年恭 ， 馬場久紀（東海大学 ），井筒 潤（中部大学），鴨川 仁（東京学芸大学）
東海大学方式地震先行VLF帯パルス電磁波観測装置の開発

10:00-10:40
[特別講演]
道本光一郎 （ウェザー・サービス（株））
雷の発生と電磁放射（気象学的な側面からの考察を中心に）

10:40 -11:05
[グループ活動報告]
本島 邦行（群馬大学）
見通し内 VHF 帯放送波伝搬異常と地震発生の関連性解析

11:05-11:25
[一般講演]
森田笙 ， 茂木透（北海道大学・地震火山研究観測センター ）
VHF帯見通し外電波伝播と地震発生との関係の統計的検証

11:25-11:45
[一般講演]
谷川廣祐 ， 本島邦行 ， 羽賀望（群馬大学）
ウェーブレットを用いた見通し内VHF帯放送波の伝搬異常と地震の統計的関連性

11:45-12:05
[一般講演]
斉藤好晴（NPO法人地震前兆総合観測センター），鳥山英雄（東京女子大学），早川正士((株)早川地震電磁気研究所)，矢田直之（神奈川工科大学、NPO e-PISCO），金子光弘（個人研究者）
多方式・多点観測による地震前兆観測の推進

12:05-12:25
[一般講演]
國廣秀光，清水康丸，大塚章一，横井孝佳，新谷進（JYAN研究会）
地震直前の電磁現象と電磁波観測による地震予測

—プログラム —

第 1日目 12 月 21 日（月）　午後の部１
座長　神山　眞（東北工業大学）

13:30-14:10
[特別講演]
平田晃正，杉山侑紀也(名古屋工業大学)
電磁界の生体影響について

14:10-14:30
[一般講演]
山内寛之，大谷伸代(麻布大学)，太田光明(東京農業大学)，斎藤幸生(農業・産業技術総合研究機構)，浅野智計，早川正士((株)早川地震電磁気研究所)
搾乳牛における乳量変化と地震との関連性に関する統計的検証

14:30-14:50
[一般講演]
早川正士((株)早川地震電磁気研究所)
On possible electromagnetic effects on abnormal animal behavior before an earthquake

14:50-15:10
[一般講演]
浅野智計(富士警備保障(株))，早川正士((株)早川地震電磁気研究所)
VLF/LF帯電波観測ネットワーク構築による観測的研究の動向

15:10-15:35
[グループ活動報告]
榎本祐嗣，山辺典昭(信州大学)，奥村暢朗(㈱コンポン研)
1965-1967松代群発地震に伴った電磁気異常（地磁気変動、地震発光、大気電場変動）の発生メカニズム―岩石破壊に伴う帯電ガス流のラボ実験―

休憩(20分)

第 1日目 12 月 21 日（月）　午後の部２
座長　長尾年恭（東海大学）

15:55-16:15
[一般講演]
筒井稔(京都産業大学)
地殻活動により敏感に励起される電磁波パルスの確認

16:15-16:35
[一般講演]
海野良次(東京都立多摩科学技術高等学校)
地震に伴う特有電磁波放射の観測及び検出

16:35-16:55
[一般講演]
孔向陽（山東省地震局/中国），蘇凱之(地殻応力研究/CEA/中国)，　藤縄幸雄((株)ミエルカ防災)
蘇式４成分歪計(SKZ-1)による地震前兆現象の検出

—プログラム —

第 1日目 12 月 21 日（月）　午後の部２
座長　長尾年恭（東海大学）

16:55-17:15
[一般講演]
山口弘輝（富士警備保障（株））
海域深部で発生した地震に伴うVLF/LF電離層擾乱検出の特異例について

17:15-17:35
[一般講演]
A. Schekotov（地球物理研究所/ロシア），H. J. Zhou, X. L. Qiao(ハルピン工科大学/中国)，早川正士（(株)早川地震電磁気研究所）
ULF/ELF radiation in possible association to the 2011 Tohoku EQ as observed in China

懇親会　18:00～　大学会館3階　ROYAL

第 ２日目 12 月 22日（火）　午前の部
座長　古宇田亮一（産業技術総合研究所）

09:30-10:10
[特別講演]
小泉尚嗣（滋賀県立大学），今給黎哲郎（国土地理院）
気象庁震度データベースを用いた地震予測

10:10-10:30
[一般講演]
神山眞，小出英夫，沢田康次，秋田宏，千葉則行(東北工業大学)，三神厚(徳島大学)
GNSSデータのPPP特性値変動と地震発生の関係 -内陸地殻内被害地震の例-

10:30-10:50
[一般講演]
三上厚（徳島大学），神山眞（東北工業大学）
南海トラフの地震を想定した地殻変動監視システムの構築と運営

10:50-11:10
[一般講演]
Seiya Uyeda (Japan academy), Yuki Tomizawa (Chino High School), Toshiyasu Nagao (Tokai University), Masashi Kamogawa (Tokyo Gakugei University)
Criticality and Natural Time

11:10-11:30
[一般講演]
小張剛照，韓鵬，服部克巳(千葉大学)
2008年十勝沖地震に先行する地殻変動(応力場の時空間変動)の事例研究

—プログラム —

第 ２日目 12 月 22日（火） 午前の部
座長 古宇田亮一（産業技術総合研究所）

11:30-11:50
[一般講演]
成嶌友佑(東京学芸大学) ,長尾年恭(東海大学),鴨川仁(東京学芸大学)
地震先行VLF帯電波パルス測定システムの機器評価

11:50-12:15
[グループ活動報告]
鴨川仁, 織原義明(東京学芸大学),長尾年恭(東海大学)
複数の地震先行現象検知で行う確率論的な地震発生予測

第 ２日目 12 月 22日（火） 午後の部１
座長 服部克己（千葉大学）

13:15-13:55
[特別講演]
末廣 潔(国立研究法人海洋研究開発機構)
大地震前の過程

13:55-14:15
[一般講演]
東郷翔帆, 新田英智(東京学芸大学) ,児玉哲哉（JAXA）,鴨川仁（東京学芸大）
DEMETER衛星VLF帯電場波形データを用いた地震に先行するVLF帯電波強度減少現象の研究

14:15-14:35
[一般講演]
新田英智, 東郷翔帆, 鴨川仁(東京学芸大学)
DEMETER衛星の観測データを用いた地震先行電離圏擾乱の統計的研究

14:35-14:55
[一般講演]
浅野智計(富士警備保障(株)),早川正士((株)早川地震電磁気研究所)
VLF/LF帯電波伝搬解析による理論的研究の動向

—プログラム —

第 ２日目 12 月 22日（火） 午後の部１
座長 服部克己（千葉大学）

14:55-15:15
[一般講演]
金谷辰耶, 鴨川仁(東京学芸大学)
GIM-TECデータを用いた地震先行電離圏擾乱統計的研究の追解析

休憩(20分)

第 ２日目 12 月 22 日（火） 午後の部２
座長 藤縄幸雄（（株）ミエルカ防災）

15:35-16:00
[グループ活動報告]
茂木 透(北海道大学)
北海道における地震電磁気観測研究

16:00-16:20
[一般講演]
小山孝一郎(九州大学国際宇宙天気研究・教育センター/国立成功大学プラズマ宇宙科学研究所/台湾)、Sun, Yan-Yi (国立中央大学/台湾)、児玉哲哉(JAXA)
大きな地震前の電離圏擾乱の電場発生に関する考察

16:20-16:40
[一般講演]
服部克巳, 韓鵬, 本間彩乃(千葉大学)
地震に先行する電離圏総電子数変動の統計解析
～リアルタイム予測へむけたグローバル変動の除去手法の検証～

16:40-17:00
[一般講演]
Peng Han, Katsumi Hattori (Chiba University), Jiancang Zhuang (Institute of Statistical Mathematics)
Assessment of the earthquake precursory potential information in ULF magnetic data

発表講演について

特別講演：発表30分 ＋ 質疑応答10分 計40分
ｸﾞﾙｰﾌﾟ活動報告：発表20分 ＋ 質疑応答05分 計25分
一般講演：発表15分 ＋ 質疑応答05分 計20分
※当日は発表用PCを用意します。PPTで作成されたファイル(USB)をご持参下さい。また、PCの持込みも可能です。

関連行事報告

International Workshop on Earthquake Preparation Process 2015, -Observation, Validation, Modeling, Forecasting - (IWEP2) 開催報告

服部　克巳[1)]
1） 正会員 千葉大学大学院理学研究科教授，メールアドレス：hattori@earth.s.chiba-u.ac.jp

2015年5月29日～30日に千葉大学西千葉キャンパスにおいて地震準備過程に関する国際ワークショップ2015 (International Workshop on Earthquake Preparation Process 2015,- Observation, Validation, Modeling, Forecasting - (IWEP2))を本学会との共催および台湾の国家宇宙局(NSPO) および電気学会・電磁界を用いた自然災害軽減のための観測・予測・解析技術調査専門委員会の後援で開催しました（サイトhttp://www-es.s.chiba-u.ac.jp/geoph/ulf/iwep2/も参照）。

本学会からは早川正士会長に招待講演を行っていただいたほか、多数の会員の参加がありました。なお、第1回のワークショップは2014年8月にアジアオセアニア地球科学会議(AOGS)2014のポストカンファレンスとして北海道大学で開催しています。

本国際ワークショップの主たる目的は次のとおりです。2015年は1995年の神戸地震から20年という節目の年であり、その後も2004年インドネシア・スマトラ地震、2008年中国・四川地震、2011年東北地方太平洋沖地震など多くの甚大な被害をもたらした地震が発生しています。一方、地上や衛星データの解析からさまざまな地震前兆現象が報告されています。最近の成果では、統計的有意性や再現性、普遍性などが報告されつつあります。本ワークショップでは短期地震予測への地震前兆現象の応用について議論するとともに、発生機構や伝搬機構などの物理的なメカニズムについても検討することを目的に企画しました。具体的な本ワークショップの主たるトピックは地震準備過程や地震前兆現象の物理メカニズムに関する一般的な議論、地震前兆現象の発生・伝搬や地震サイクルに関する理論、モデル、室内実験、計算機シミュレーションなど、地震前兆現象の観測、検知、検証、地震前兆現象と地震学との関連や相関に関する検討などです。

実際のところは幕張で開催された2015年の日本地球惑星圏学会連合大会(JpGU)の国際セッションで折角日本まで来ていただいた海外の研究者の方に15分程度の講演だけで帰っていただくのは大変もったいないので、ポストワークショップを企画し、最新の研究成果を十分に話していただき、意見交換や相互理解、研究交流を深めようという趣旨でした。ところが、ふたを開けてみるとIWEP2だけのために参加した方が結構たくさんいらっしゃり、投稿を締め切ったところで、発表講演数がオーラル31件、ポスター6件の合計37件となりました。本ワークショップを計画した当初は3-40名程度の参加で北海道大学で開催した1回目より参加者が増えればいいと思っていたのですが、それを大幅に上回ることになる大変嬉しい誤算でした。当初予定していた45名程度の会場から急遽大きな会場に変更したほどです。参加者は中国、台湾、アメリカ、カナダ、韓国、インドネシア、タイ、インド、トルコ、日本の10か国から60名の参加があり、活発な議論がおこなわれました。

写真1　IWEP2の集合写真

学生も北大、東京学芸大、千葉大、東大、台湾大などから参加がありました。

本ワークショップの特徴は、原則的に研究者は30分、学生は20分(ともに質疑の時間5分間を含む)と通常の学会と比べて長い講演時間をとり、聴衆により理解を深めていただき建設的な議論を行うことを促していることと、各日程の最後に総合討論の時間をとっていることです。講演は地震に先行して出現する温度異常や赤外異常など衛星リモートセンシングを用いたもの、電離圏の地震先行現象をとりあつかったもの、地上観測に基づくもの、モデル計算などにわたり各講演とも活発な議論がなされました。

本ワークショップの目玉の1つとして、中国の地震電磁気衛星の責任者である中国国家地震局のShen博士にCSES(Chinese Seismo-Electromagnetic Satellite)衛星開発の現状を報告していただきました。この衛星は仏国のDEMETER衛星(2004-2010)に続く本格的な地震電磁気観測のために製作される衛星です。搭載されるセンサの内容はほぼDEMETERと同様です。DEMETERとの大きな違いは、複数の衛星を打ち上げることが決定されていることと、地上観測網がテストサイトとして中国国内に整備されることです。衛星は原理的に現象の時空間性の区別ができません。そこで中国の計画では、１機目は2016年9月に約500 km高度の軌道に打ち上げられ、その後数年かけて複数のCSES衛星が打ち上げられる予定です。データは国際的に開放される予定(個人的には懐疑的ですが)とのことで、多くの研究者がDEMETERミッションに続く、大規模プロジェクトとして、また地圏―大気圏―電離圏結合の謎を解くデータ取得を期待しています。個人的にShen博士に伺ったことなのですが、CSESプロジェクトには数百人のスタッフが専任として従事しているとのことです。必ずしも固体地球（地震学や地球物理学）が専門ではないようでしたが、ハードだけでなく、ソフト的にも十分人員が充足されており、国を挙げて若手の人材育成と研究が同時に進行している状況で、羨ましい状況でした。

全体的な傾向からは、衛星リモートセンシングとGNSSデータの応用した電離圏モニタリングに関する発表が多かったように思います。両者とも、研究者自らが観測する必要がなく、データ取得・入手が比較的容易であるという特徴があります。日本では地震予測研究の衛星リモートセンシング的アプローチはさほど増えてはいませんが、世界的には地上観測よりも大きなトレンドとなりつつあります。研究者の増加は研究の急速な深化や論文・学会報告の増加となり、地圏―大気圏―電離圏結合研究の進展の駆動力になっていくと思われます。

その他、特に印象的だったのは統計解析結果に基づいてprospectiveに予測を行う方向性の講演が多く見られたことです(例えば、Ouzounov博士のOutgoing Longwave Radiation (OLR: 衛星観測温度異常)やHan博士の地上ULF磁場変動異常に関する講演など)。今後は通常の学会でもこの方向になっていくのだと思います。

個人的には現在の地震予測の現状を天気予報に例えると、予測をするために必要な温度、湿度、気圧等々のパラメータを探している途上にあると考えています。それらのパラメータが各研究者の取り組んでいる“衛星熱赤外異常”や“温度異常観測”であり、“GPS-TEC異常”、“VLF電波伝搬異常”であり、“ULF電磁場異常”等であるわけです。それらと地震との相関の調査、例えば統計的有意性、前兆性、普遍性、再現性等のテストをパスしたものが統合・融合され、評価式やモデルの構成要素となり、地震等の地殻変動予測ができるようになると考えています。現段階では統計的予測の域を出ませんが、地震との相関が明らかになっていくうえで因果関係も証明され、物理的なモデルが解明されていくはずと考えています。

本ワークショップの総合討論では初日は米国Chapman大学のOuzounov博士、2日目は電気通信大学名誉教授／本学会会長の早川正士先生に議長をお願いし、討論をコントロールしていただきました。初日は地震前兆現象を扱うグループの活動について、これまでは個人の活動で進展してきているが、これからは（観測パラメータの融合等を鑑みると）グループあるいはコミュニティとしての活動が重要になり、そのプレゼンスを示すことにより、国や民間の助成の獲得につながっていく見解が示されました。2日目は主として研究成果の発表の場として地震短期予測に焦点をあてた国際誌を発行するかどうかについて議論をしました。参加者全員に研究グループが抱える問題点について改めて共通認識をもって頂ける機会になったと考えています。

研究者間の相互理解の向上、研究・人的交流の促進や、持続的な活動の維持と広報、新しい仲間の勧誘のためには学会等において積極的にセッションの提案・運用することとともに、今回のようなIWEPのようなポスト（あるいはプレ）ワークショップをうまく活用することが効率的で重要と考えています。このような会議から新しい化学反応がうまれると思っています。

2016年度も5月に千葉幕張で開催されるJpGUにおいて地震電磁気関連の国際セッションの設置が決まりました。本ワークショップをこれまでに協働で運営してきた台湾国立中央大学のJY Tiger Liu教授および米国Chapman大学のOuzounov博士とは、IWEP3の開催で基本的に合意しています。会員のみなさまもぜひご参加をご検討いただければと思います。

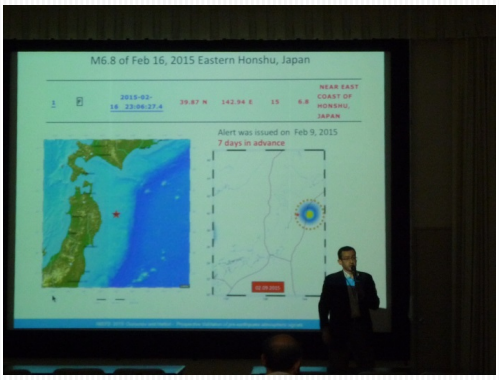


写真2 IWEP2の講演の様子 (Ouzounov博士)

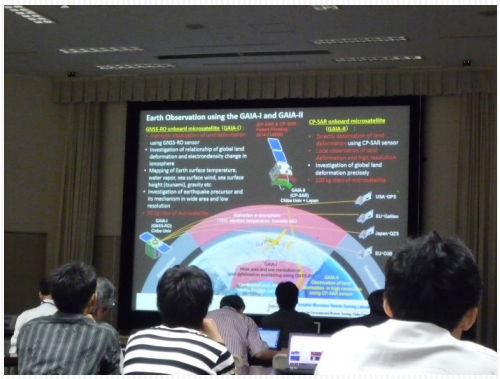


写真3 熱心に講演を聞く参加者

写真4 質疑応答の様子

写真5 懇親会の様子

理事会開催報告

日本地震予知学会第2回理事会（要旨）

1　招集通知年月日　　平成27年9月1日（火）
2　開催年月日及び時刻　　平成27年10月01日（木）
　　電気通信大学西11号館5階会議室

4　出席者
1)理事　　早川　正士、長尾　年恭、服部　克巳、藤縄　幸雄、神山　眞、
　　芳原　容英、児玉　哲哉
2)監事　　（欠席　古宇田亮一）
3)名誉会員　　上田　誠也
4)事務局　　山口　弘輝

5　議事
　第1号議案（報告）　会務報告
　第2号議案（審議）　第2回学術講演会
　第3号議案（審議）　JpGU（幕張）セッションの検討
　第4号議案（審議）　学会HPの文言修正提案
　第5号議案　　総会の開催とその方法
　第6号議案　　ニュースレターの提案
　第7号議案　　国際会議報告
　第8号議案　　理事選挙
　第9号議案　　今後の戦略
　第10号議案　　次回の理事会

ニュースレター記事募集

会員の皆様からのニュースレター記事を募集します。
地震予知に関する意見、感想、地震予知に関する研究ノート、書籍紹介、地震予知に関係するイベントの案内・開催報告、等々地震予知に関する様々な話題をお寄せ下さい。
投稿記事のフォーマットや様式は任意です。
下記の学会メールアドレスまでメール添付ファイルとしてお寄せ下さい。
E-mail: office@eqpsj.jp

書籍紹介

「科学は大災害を予測できるか 」

著者：フロリン・ディアク（Florin Diacu）
（カナダ、ビクトリア大学教授）
訳者：村井章子
発行：文藝春秋社（文春文庫）
定価：686円

紹介者：神山　眞
（東北工業大学名誉教授）

本書の著者フロリン・ディアク（Florin Diacu）氏はカナダのビクトリア大学教授の数学者である。専門はカオス理論と天体力学で、高度な微分方程式により惑星などの運動予測を行っている研究者である。

本書の原著は「 MegaDisasters ： The Science of Predicting the Next Catastrophe 」で、プリンストン大学出版局とオックスフォード大学出版局の二つの原著版を持っている。いずれも欧米で評判をとった著作で、日本の文藝春秋社が原著発行前から出版に興味を示して支援した経緯があるようである。この経緯から最初、本書の翻訳版は単行本として文藝春秋社から2010年2月に発行された。

その後、2011年3月に東日本大震災の発生があり、本書の価値が改めて認識されることになり、時宜にあった著作として文春文庫の文庫版として2012年10月に出版された。その際、単行本で割愛された地震に関する基礎知識の記述が大幅に追加された。

単行版、文庫版のいずれも日本語訳は村井章子氏によりなされており、自然科学本の訳著にありがちな堅さはなく、スムーズに読み進めることができる。原著はもとより日本語版も稀にみる良書と言えよう。

本書の予測問題は八つの現象が対象とされている。順番に、１章「津波」、２章「地震」、３章「火山」、４章「ハリケーン」、５章「気候変動」、６章「小惑星の衝突」、７章「金融危機」、８章「パンデミック」である。本書はこれらの現象への予測問題の詳細な各論に加えて、まえがき：「数学と科学の交差ポイント」、９章「予測はどこまで可能となったのか」という序章と終章が与えられおり、読者への説得力を増すべく配慮がなされている。さらに、最後に川島博之氏（東京大学大学院准教授）による「誰がカオス理論を破れるか」という簡単な解説が加えられている。

本書は人類の究極の課題である大災害の予測問題を科学者の視点から真摯に追究した好著であり、本学会会員にも多くの示唆を与えると考えられる。とりわけ、地震予知問題について著者の忌憚のない意見は傾聴に値する。

各章ともそれぞれの災害現象の研究上の歴史が詳しく述べられていると同時に多くの関連文献が渉猟されている。地震の章でも適度に詳しく研究経過が述べられており、専門家はもとより一般読者にも参考となる。

全般にそれぞれの災害現象の予測可能性について現状での否定的なトーンの印象が強いが、併せて未来への希望も同時に与えられているのは好ましい。その中で地震予知について、「最悪の場合、地震がカオス力学系であって長期予測が不可能だとしても、短期や直前の予知は十分に可能なはずだ」と述べているのはとりわけ注目される。

本書は文庫本であり、比較的安価（本体価格６８６円）に購入できるのもうれしい。是非、日本地震予知学会の皆様にも一読をお勧めしたい本である。

編集後記

平成27年10月1日に開催された理事会において日本地震予知学会のニュースレターを発行することが決定されました。当面、6月、12月と2回/年の発行をすることとして、継続することに重点を置き、会員間の意思疎通を高めることを目指します。

今号は記念すべき第１号として会長の挨拶をいただきました。また、第２回となる重要な行事の「学術講演会」の案内とプログラムを掲載しました。関連行事として今年5月に千葉大学で開催された国際会議のIWEP2の開催報告を議長を務められた服部先生から頂きました。

編集子が未だ不慣れなため読みづらい面が散見されますが、逐次皆様のご協力を得て充実させて行きたいと思います。「手作り」のニュースレターとして今後のご愛読をお願い申し上げます。

（編集担当理事：神山）

一般社団法人　日本地震予知学会

〒108-0014 東京都新宿区岩戸町11番地　清風ビル3階
TEL、FAX: 03-5579-8470
E-mail: office@eqpsj.jp
Website: http://www.eqpsj.jp/contact.html
＜本ニュースレターの内容を許可なく転載することを禁じます。＞